



さて、この違いわかりますか？ -イヌシデとキブシ-

2025年4月10日

会議のため、泰阜村役場に行く途中の県道1号線沿いで、イヌシデとキブシの美しい果穂が春風にゆらゆらと揺れていました。



スダレのような形状はどちらもとても似ており、一見すると区別が付きにくいですね。

どちらがイヌシデで、どちらがキブシでしょうか？



以前、[キブシはこのブログ\(R6.4.9\)](#)で紹介しましたので、わかった方もいらっしゃるかもしれませんが、

上の写真がイヌシデで、下の写真がキブシです。よく観察してみると、それぞれに個性があります。

イヌシデは淡い黄緑色がかった果穂で、繊細でしなやかな印象を受けます。一方、キブシの果穂は白に近いクリーム色で、小さいながらも力強い房が特徴的です。

イヌシデの名の由来は、[神社でみる四手\(紙垂\)](#)に似ていることから「シデ」という名前が、「イヌ」はあまり役に立たないという意味で(植物名の)頭につけられたそうです。他にもイヌタデ、イヌザクラ、オオイヌノフグリ、イヌワラビなどありますが、ちょっと失礼ですね。イヌにとっても・・・

これから葉が芽吹いてきますが、イヌシデの葉は縁がギザギザとしていて、葉脈がしっかりとしたストライプ柄のの葉っぱで、そんな小さな違いや美しさを発見しながら、春の散策を楽しむのもまた一興です。

アセビ(馬酔木) ～庭先にも野山にも～

2025年4月12日



先日、会議で行った泰阜役場近く道路脇の山林で、純白でスズランを思わせる

可憐な花をたくさん咲かせたアセビを見つけました。

アセビは常緑の低木で大木になることがないため、庭木や公園の植栽として親しまれています。そのため、自然の野山でアセビを見ることがほとんどなく、ちょっとビックリしました。周辺に大小様々のアセビが何本も生えていましたが、もしかしたら人が植えたものが、野生化して増えていったのかもしれない。

「アセビ(馬酔木)」という名前には、古い時代からの自然との関わりがあります。この植物、その葉や茎に毒性があり、牛や馬が誤



って食べてしまうと中毒症状を起こし、酔っぱらったような状態になることから、この漢字が当てられたと言われています。人にも有害で、摂取する下痢や嘔吐、腹痛、痙攣、麻痺などさまざまな症状を引き起こす可能性があるそうです。怖いですね。気をつけましょう！

アセビの花は、その小ささゆえに一見目立ちにくいですが、近づいてよく見れば見るほど、その美しさに心を奪われます。風に揺れる花房が、私たちの目を楽しませてくれます。

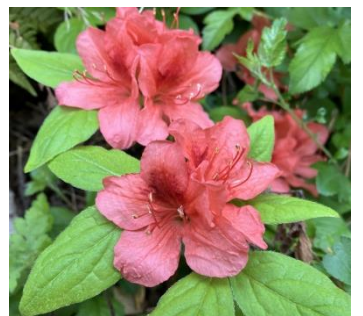
ヤマツツジ(山躑躅) ～控えめながらも惹きつける朱色～

2025年4月22日

ちょっと前には、鮮やかな透明感のある紫色のミツバツツジが咲いていたのですが、今回(阿南町大下条で見つけた)のは多分「ヤマツツジ」かと思われる野生のツツジです。同じツツジ科の仲間でありながら、花の色合いや葉の大きさなど違いがあり、それぞれに個性が感じられます。「ヤマツツジ」は鮮やかな朱色の花を咲かせ、南信州(飯田市や阿南町など)でもよく見られ、春の山々を彩る風物詩となっています。

この時期、山野の至る所で見かける小ぶりな葉との鮮やかな朱色の花弁は、力強い生命力や安心感を感じます。

ツツジという名前は、古くから「つつしむ」という意味を含み、控えめながらも華やかな





美しさを持つことから付けられたと言われています。また、漢字では「躑躅」と書き、「躑」の字には「足踏みする、ためらう」といった意味が、「躅」の字にも「ふむ、たちどまる」といった意味があるそうです。つまり、花の美しさに足を止めて見入ってしまう様子を表しているという説だそうです。(美ヶ原や高ボッチなどで有名なレンゲツツジなどには毒性があるこ



とから、動物たちが足踏みするといった説もあるそうです。)

皆さんも是非、春の暖かな光の中、周辺を散策しながら季節の移ろいを感じましょう！

イカリソウ(錨草) ～心惹かれる、白く繊細な造形～

2025年4月25日

阿南町大下条の静かな森の中で、ひっそりと咲く『イカリソウ』と出会いました。柔らかな木漏れ日の中、周囲の緑に溶け込むかのように、透き通るような純白の花が静かに咲いていました。

花びらはご覧の通り独特な形状で、その形が船の錨(いかり)に似ていることからイカリソウ(錨草または碇草)と呼ばれています。まるで折り紙細工のように繊細で複雑な形をしています。自然って不思議すごいですね。



葉もまた印象的です。可愛らしいハート型をしており、その縁には細く鋭い棘のような毛が生えています。



このユニークな葉の形と質感も、イカリソウの魅力の一つですね。

この可憐な姿からは想像できませんが、このイカリソウは薬

草としても利用されてきました。強壮作用や滋養強壮の効果があるそうです。美しさの中に力強い生命力を秘めているのですね。

阿南の豊かな自然の中で、ひっそりと咲く白い妖精＝イカリソウ。出会えればきっと、皆さんもその神秘的な魅力に心惹かれることでしょう。

ミヤマシキミ(深山檜) ～光沢ある濃緑の葉と白い小花～

2025年4月28日

イカリソウを見かけた山間で、もう一つ目を引く植物に出会いました。濃緑の葉の上に、小花がまとまって咲く花「ミヤマシキミ(深山檜)」です。



ミヤマシキミという名は、その葉の形が「シキミ(檜)」に似ていることから名付けられたと言います。そのシキミ、自分は知らない花で、あまりピンときませんでした。独特な香りを持ち、仏事にも使われる植物だそうです。しかし、似ているのは葉だけで、シキミはモクレン科に属し、ミカン科のミヤマシキミとは全く異なるそうです。

ミヤマシキミは、山地の林床に自生する常緑低木樹です。一年を通して美しい光沢のある濃緑の葉を保ち、秋から冬にかけて枝先に現れる赤い蕾をつけるようです。赤い蕾は春の開花まで半年近くもその姿を楽しむことができるそうです。春、蕾はご覧のように白い小花の集合体をつくり、ほのかに香りを漂わせます。

秋になると赤い実をつけるようですが、この果実には毒性があり、注意が必要とのこと。